

## 平成22年度柏原市図書館協議会議事録

1.日 時 平成22年8月2日(月)午前10時から午後零時10分

2.場 所 市民文化センター2階講座室

3.出席者

出席委員

会 長 高鍬裕樹(学識経験者)  
副会長 蛇草真也(学校教育関係者)  
委 員 中村保治(学識経験者)  
委 員 濱浦佳子(学識経験者)  
委 員 星子都美子(学識経験者)  
委 員 吉見静香(社会教育関係者)  
委 員 大谷綾子(社会・家庭教育関係者)

欠席者

委 員 出野光広(社会教育関係者)

教育委員会及び事務局

教育長 稲田那敏  
生涯学習部長 岡本彰司  
柏原図書館長 山本良次  
柏原図書館参事 真野繕意  
柏原図書館主査 北野良一  
国分図書館館長 八幡敏朗  
柏原図書館主査 増井良年  
柏原図書館 児玉太津男

4.案件

- (1)副会長の選任
- (2)平成21年度の図書館事業の結果報告について
- (3)平成22年度の図書館事業計画について
- (4)図書館サービスの拡充と施策展開について  
検索システムサービスの整理について  
開館日の拡大について  
第4次総合計画における成果指標について
- (5)その他

5.議事の内容

司 会

おはようございます。定刻となりましたので、只今から、平成22年度柏原

市図書館協議会を開会いたしたいと存じます。皆さま方には、本日、公私何かとお忙しい中ご出席いただき誠にありがとうございます。

進行を務めさせていただきます、柏原図書館長の山本でございます。本日の会議は、柏原市まちづくり条例第15条の規定に基づき公開の対象となっておりますのでよろしくお願い申し上げます。

会議に入ります前に、当協議会に選出していただいています各種団体において異動がございました関係上、新たに本日3名の方を委員として任命することになりましたので教育長から任命書の交付を行いたいと思います。

[教育長から新委員(蛇草・吉見・大谷委員)に任命書の交付]

[教育長挨拶]

[出席委員及び事務局の紹介]

[資料の確認]

[稲田教育長と岡本部長別途公務のため退席]

司 会

それでは、会議に移らせていただきます、高鍬会長に議事進行よろしくお願いいたします。

会 長

これより、図書館協議会を始めていきたいと思います。会長の高鍬です。まず初めに、当協議会の会議成立要件についてどうですか。

事務局

柏原市図書館協議会条例第5条第2項の規定では、委員の半数以上が成立要件となっております。出野委員からやむを得ず欠席する旨の連絡をいただいていますことから出席委員は7名ということで会議は成立しております。

会 長

それでは、次第に基づき、議事を進めさせていただきます。

最初に、1号議案の副会長の選任についてを議題としたいと思います。選任方法についていかがいたしましょうか。

[会長一任]

只今、会長一任との声がありましたので、副会長には引き続き校園長会から選出されておられます「蛇草」委員にお願いしたいと思います。異議がなければ拍手をもってご承認お願いいたします。

「蛇草」委員よろしくお願いいたします。

会 長

次に、2号議案であります平成21年度の図書館事業についてを議題といたします。事務局から説明をお願いします。

事務局

平成21年度の図書館事業についてご説明申し上げます。内容につきましては、要点のみ簡潔に説明させていただきます。該当する資料としては、柏原市図書館平成21年度の冊子と資料の から をご確認ください。

協議会用の冊子につきましては事前に送付させていただいておりますので簡単にご紹介させていただきます。冊子の1ページでは教育長が先ほど紹介いただいた基本方針を載せています。2ページにつきましては、沿革を、次の組織につきましては、資料の に平成21年度と平成22年度との組織状態の比較の表を載せております。また、決算につきましても資料 として詳細資料を付けております。4ページからは施設の概要それからサービスの概要を掲載しております。

次に11ページ目からは21年度の統計、今年の3月末現在で蔵書数は214,260冊です。ここで、平成20年度と平成21年度の比較し、変わった点、注目すべき4点について資料の を使って説明させていただきます。まず、蔵書についてですが、前年度に比べて柏原図書館が3,646冊、国分図書館では5,244冊増えております。次の予約状況であります。インターネットによるほんの予約は毎年増え続け利用予約は、円グラフに示しているように予約全体の19%を占める割合となっております。

次に貸出についてですが、比較の表のとおり、柏原図書館は右肩上がりで貸出増が続いております。国分図書館は、平成19・20年度と貸出が若干減少してはりましたが、回復基調となっております。特に児童書の貸出が回復した要因であります。

次に事業・展示であります。20年度と21年度の比較を載せておりますが、特に国分図書館が増えておりますのは、平成21年度が開館5周年にあたりましたのでかなりの記念事業を実施したことによるものであります。

会 長

只今の平成21年度の図書館の事業の概要説明がありました。何かご質問はありませんか。

委 員

21年の議事録の中で、国分図書館の子どもの利用数が少ないという事務局

からの話の中で、玉手地区に対する対策として、移動図書館サービスの巡回について議論されたかと思います。玉手小学校の校長先生と話しをする機会があり、その中で国分図書館に一人で行くことは、安全策も含めて、校区外ということで躊躇されているということでした。

前回の協議会で討議された子どもの利用が少ないとのことに対する、その後の対応についてお聞きしたい。

事務局

移動図書館については、国分図書館ができた時点で、本当に必要かどうか議論なされたと聞いております。

その中で図書館の基本方針である全地域を対象としていることから、堅上・東条柏翠苑・石川周辺には、引き続き移動図書館によるサービスが必要であるとされました。

一方、国分図書館については、児童図書の内容を重点としています。その中でどのような形で存続・継続するかという点は、柏原市の面積は25.39平方キロで、いずれも柏原駅・国分駅に近いという条件の中で、半径1キロ以内を基点として設定をしたところであります。

去年の玉手小学校区の問題部分については1キロを超えている子どもさんの家庭もあります。

しかし、すべてをクリアするのは難しいという認識の中で、学校との図書館のありかたについて、学校がどのような認識されているのか、去年1年間進んでいないと思います。早急に図書館の生涯学習部としてどのような対応をしていくか、学校教育部としてどのような対応をするか、子どもさんが国分図書館を利用できるように直ちに検討していきたいと考えます。

委員

せっかく1年前の協議会で反映していきましょと、玉手小学校に限らず、1年たっても同じ答えしか返ってこないのは残念です。規定は1キロ以内と言うことは理解できますが、調査されたかどうか、経緯はいかがですか？

事務局

昨年の議論の中で、はっきりした回答はでませんでした。最大の理由は、学校として安全という問題をどのように対応していくかという内容だったと思います。

図書館サイドではできれば、保護者が子どもさんを連れてきていただければ、これにこしたことはない。高学年であれば、しばり無視で本が読みたいときに自転車で来ているのが現状です。

そこで、図書館としては、しばりを乗り越えるくらいの様々な事業やお話会とか、魅力ある図書館を作ろうと4月から全力でやってきました。

その結果、利用者は減っていますが、1回の貸し出しは増えています。その理由は、新型インフルエンザの影響もありましたことから小学校で図書館に行くと言うことで、5月は閑散としていました。その中でも、来る子は、貸出限度の10冊までを借りている姿をみたら、やっぱり来たいのだと思いました。

図書館としてできるもの、学校として理解していただけるものを、教育委員会の中で、調整をとるべきものと思っています。1年間の現状はこのようなものです。

#### 委員

一番気になったのは、テーマにのぼるということは声が上がっているからで、それに対して、図書館として、不本意な結果として同じであれば仕方ないですが、1キロという制限枠もあるが、具体的対策として移動図書館もあるので一度検討してほしいです。声をたくさん聞いています。苦情は次のステップになります。アンケートをお願いします。

#### 委員

その時の話で、図書館に玉手から山越えして図書館行くのは危ないということで、学校としては行動範囲外というはなしでした。

議論の中で、学校図書と図書館とは親密な関係は持っていないとのことでした。図書館に入りこんで、いろいろすることはない、また、学校図書として何かするということはないという話でした。

最終的には、学校図書と図書館との読書推進についてなど、どうなっているのかなと言うことも一緒に話していかなくてはいけないのではとなっていたと思います。

現在、学校では、ボランティアが朝読をしたり、図書室で本を選んで読んでりする活動をしています。そういう活動を通して、学校図書と図書館とは密接に連携されていないと聞いていたと思います。

#### 事務局

学校との連携であります、学校図書ボランティアという集まりが年に何回か教育委員会で行われると聞き、参加いたしました。その中で、具体的状況はどうか、子どもたちが図書館にいけない状況があるのか、ヒアリングを行い、いかに来てもらえるかの話し合いをしました。

子どものライフスタイルが変わってきています。学校が終わって図書館にはいけない、それでは、学校図書ボランティアさんで学校図書館の本をどんな風に貸し出しているか。

図書館サイドとしては、団体貸出しの案内を持参し、簡単にできるというPRを行いました。また、学校図書館で図書ボランティアさんが紹介していただく本のリストも作りましょうといい、それを作って渡したところであります。

その結果、国分図書館での団体貸出しはとても増えました。

会 長

貸し出しについて、平成20年度から21年度にかけて国分図書館の貸し出しが増えているということですが、要因としては、てこ入れがあったのか、自然増加でしょうか。それとも別の要因でしょうか。

事務局

集中改革プランを作って、実施し、子どもたちが来れるような図書館づくりを目指しました。

その間、インフルエンザの影響により、来館者は減少しましたが、貸し出し数は増えました。ただ、子どもの貸し出しの減少傾向は続いているので、なんとかしなくてはいけない状況は変わっていません。

去年は、開館5周年ということでいろいろな事業を計画立案し、かつ、使いやすい図書館運営をめざしました。

会 長

実利用者数について、これは延べですか？

事務局

1人が何回使ってもいい、有効登録者ということです。

会 長

人口に対する実利用者数の割合は17.17%で、もう少しあげたいところです。

来年度の事業計画のところで言うべきかもしれませんが、市民1人当たりの図書購入額134円で、全国の平均は180円くらいで少ないように思われます。

一方で、1人当たり平均貸し出し数5.75冊、全国平均は5冊で、購入額が少ない割にがんばっていると思います。

事務局

柏原市の財政的なものもあり、一般会計の予算としては、260億円位で推移していましたが、現在220億円の予算となっています。

とりあえず、いままでは国分図書館の蔵書数7万冊を目標に、図書購入費として2館で1千万円の予算要求し、99.9%執行となっています。7万冊をクリアした段階で、かつ、国・府の補助金が全くない図書館事業について、他も一律マイナスシーリングになっているのに図書館だけを対象外とすることは難しい状況となっています。

会 長

予算に関しては、図書館だけが頑張っても、ということはわかっています。むしろ市議会でご尽力いただきたいところです。

それよりも、資料によると類似図書館の貸し出し数を比べるとかなり違うと思います。

事務局

の資料の中で、平成16年の全国上位10市の数値で、8万人以下で図書館数3.5館は多い数と思います。予算、図書館の建築面積などを推量した場合、分析はさらに必要と思いますが、この数値を単独の1市で持ちこたえることは難しいと思います。平成14年ごろから合併が進みました。町村合併で2万の町が4町よれば、町に1館あれば約4館になります。ちなみに類似市の藤井寺市は1館、高石市で2館であります。

委員

図書館にかかる費用は人件費を含め何億とかがかります。

それだけに、環境づくりにも力を入れて、お母さんが子どもを連れていきたいと思うような図書館、奈良県田原本の図書館は素晴らしいと聞いております。

会長

中身がどれだけ魅力的な資料があるかということで、より充実していこうとしたのが、現在版の図書館の指針であります。

所蔵資料は更新が大切です。これは海外でよく言われています。100万部持っていたところで、1万部を更新してもまったく充実していません。でも、2万部のところ1万部を更新すれば魅力的図書館といえます。

どれくらい魅力的かというものは、そこにどれくらい新しい本があるかという点つながります。

委員

これなら、パッと目線が行くような分類の仕方です。

2階でしたか、子どもさんの視線にあわせて、借りだしやすいような工夫をうまくされています。

会長

次に3号議案の平成22年度の事業計画を議題としたいと思います。事務局から説明させていただきます。

事務局

22年度の事業計画については、資料1から4が年度の比較表です。

はじめ、「紙芝居とお話の会」からはじまり、9月で「おじいちゃんおばあちゃんの本」展までが上半期になります。

一応、上半期の中で重点事業として「紙芝居とお話の会」や、「おはなしパーク」や「ブックパフェ」などのイベントをしていただき、好評をいただいています。なお、事業が終了分について参加人数を記載させていただいています。

次の下半期についても、紙芝居とお話の会などイベントを計画しています。

月ごとには載っていませんが、本の展示もさせてもらっています。  
上半期のうち夏の工作をテーマに「かにさん貯金箱」を作りました。  
好評で、学校の宿題にもちょうどよかったかなと思います。

会 長

只今の平成22年度の図書館の事業計画の説明がありましたが何かご質問  
はありませんか。

委 員

イベントや図書展示の際、図書館の人が図書を並べている時、来ている子ども  
たちに、読んであげるからおいでとか、長い本なら面白いところをピックアップ  
して読んで、「後はお楽しみに、よかったら借りてね」など、子どもの興味を引く  
ようなアプローチはしているのかな、画用紙に描いて並べているのは寂しいかな  
と思います。

事務局

早速、取りいれていきたいと思います。

委 員

私は、「ぶっくパフェ」に入っていますが、そこに来ている子ども、お母さん  
に連れられてくるようなちっちゃい子どもに本棚に行って、読んで、ホント  
に喜んで聞いてくれるという体験をしています。

図書館のお姉ちゃんが一緒に読んでくれるというのはいいのでは

会 長

イベントなどの事業しか報告されておりませんが、いわゆる図書館サービス  
についての計画はないのですか？

事務局

講演会などのイベントは、たまたま22年度は計画していません。今年は、  
国民読者年です。それについては、新たな形ではなく、読書週間で何かできたら  
と考えています。

会 長

先ほど、報告してもらった昨年度はこんなことをした、それを踏まえて次年度  
については、貸出し、出前、予約に関してどのようにしていくかの事業計画  
はないのでしょうか？

事務局

図書館のアクションプランのことと思いますが、先ほどの資料の中でみま  
すと、柏原市の貸出冊数5.75は平均以上かなと思っています。

しかしながら、上位10市では既に貸出冊数が年間10冊。との数値がでて  
います。先進市がどういう方策を取られているのか勉強していくつもりです。



ただ、数値的には、利用者が増え、貸し出し数も増えていますが、魅力的な本を増やしていけば、回転率も柏原市も高い方だと思いますので、10年後の10冊をめざして、取り敢えず5年後は7.5冊とあげていくという目標値を掲げ具体的な方策についてはこれからと考えています。

会 長

実際に貸し出しなどの図書館サービスと言うものに関しては、図書館サービスの施策展開の報告でご説明いただくということですね。

事務局

インターネットによる予約や開館日など具体的な方法についてはあとで説明したいと思います。今は日々の整理をパソコンでしているので、月末休館日の半分くらいは開けてもいいのではと内部で検討しています。

会 長

説明のあった図書館の事業計画について他に質問は？

なければ、次に4号議案の図書館サービスの拡充と施策展開についてを議題にしたいと思います。順次説明をお願いします。

事務局

図書館サービスの拡充方策のうち、柏原市で所蔵図書で書庫内の資料すべてを本年6月からホームページや図書館で一般利用者が検索できるようシステムの整理を行いました。これにより追加検索冊数は約5,000冊になります。

事務局

次いで、平成22年度の重点事業として利用者サービスの拡大を図るため、開館日の拡充を計画しています。来年1月から月末の木曜日の点検整理日の休館を隔月であるが開館し、年間約6日の休館日の縮小をするための準備を進めているところであります。

事務局

施策の展開として、第4次柏原市総合計画の図書館に係る主要施策と成果指標についてありますが、平成23年3月を目途に第4次柏原市総合計画を策定中で、そのうち図書館については、別紙のとおり、生涯学習として、読書活動を通じて心豊かで文化的な生活を営むことを具体的な重点目標に掲げ、成果指標としては、平成27年度では市民一人当たりの貸出冊数を7.5冊、平成32年度では、10冊を目標値としています。

現行の第3次の総合計画は、バブルが崩壊した10年後の平成13年3月に策定され、図書館としては、社会教育施設の充実として蔵書スペースの拡大や、移動図書館のサービスなどの機能の充実、インターネットを活用した図書館サービスの向上と図書の有効利用などの施策展開をうたっています。

その後の動向としては、策定後の同年7月に図書館法に基づき、公立図書館の

設置及び運営上の望ましい基準が制定されましたが、そこでは、住民のために資料や情報の提供等を直接的に援助する機関として住民の需要を把握するよう努めるとともに、それに応じて地域の実情に即した運営に努力することを基本方針とされていますが、図書館としての管理運営基準や整備基準などの具体的な数値は盛り込まれておられません。また、平成18年に参考数値として、平成16年度中の貸出冊数の多い図書館の様々な平均値も示されました。その間、

柏原市でも平成16年に国分図書館が新たに開館したことで図書館2館と移動図書館で全域サービスをしていること。柏原市の人口が減少傾向を示しているが、このままの推移を維持する見込みであること。収納スペースの関係であと40,000冊程度の資料増により、最終的な蔵書冊数としては260,000冊と見込んでいること。柏原・国分図書館の立地条件としては主要駅から近く、また巡回バスが運行していることから、蔵書に対する貸出回転率は、上位の図書館の平均値1.8に比して柏原市は2.0を示している。府下各市の図書館との相互貸借事業の伸展。金融危機後、依然として景気が回復していないこと。などを背景に成果指標を平成27年度では1.75冊増の7.5冊を、最終年度の平成32年度では、4.25冊増の10.0冊を目標値としています。

この目標を達成のために、開館日の拡大、貸出冊数の緩和、レファレンスサービスの充実など魅力ある図書館として広報活動を行い、職員が切磋琢磨し、市民がさらに利用しやすい図書館運営に努めていけば絵に描いた餅のような数値ではなく、現行の体制で十分実現可能な数値であると考えております。

会 長

只今事務局から報告又は提案がありました。ご意見又はご質問はありませんか。

委 員

休館日を減らして、開館されると言われましたが、休館日が月末にあると言うのは、いま周知されていますが、隔月で開館することになった場合の周知については、

事務局

当協議会に報告後、教育委員会において休館日の変更に伴う規則の改正が必要となります。当然、規則の改正に伴う周知期間も考慮しています。準備期間において、できれば来年1月からはじめたいと思っています。

委 員

改正により、開いているのに閉館日だと思っている市民へのPRをどのように考えていますか？

事務局

周知期間を置くとともに、利用者に利用しやすいこと、できるだけ市民に

分かりやすいように周知したいと考えます。

委員

先ほどの絵に描いた餅の話ですが、もっともと思いました。

こういう時代、最近、i padがでて、私も買おうかと思いました。

それと相对ターゲットを一般にお子様という感じをもちました。

私の近所に年配の男性がいますが、毎日図書館に行かれます。図書館好きなのです。その人は、インターネットは使いません。

毎日、毎日図書館に行かれます。そういうお年寄りに何か、サービスのなことをしてあげることはありませんか？

事務局

貸出サービスの数値の中で、柏原市は回転率が2.0で類似市に比べ高くなっています。

その中で、毎日、朝10時に来られ、夕方5時ごろ帰られるご年輩の方がおられます。そういう方については、閲覧場所や読書室を利用されています。

中には新聞を持参され、この新刊ありませんかという方や新聞を読みに来られる方もあります。

今は、夏休み期間中は読書作文のため課題図書を借りに来られています。また、幼児や低学年の子どもをおばあちゃんが連れてこられ絵本を読んでおられるなど年齢は関係なく広く利用されています。

利用されている方はうまく利用されていると思います。

なお、先ほど電子図書の話が出ましたが、私どもでも調べていますが、これをいうと図書館存続の問題、将来10年後どうなっているかわかりません。

会長

回転率が2というのは、そんなに高い数字と思わないですが。

事務局

上位の30万市では回転率が3.71で、8万市は低く、上位10市の平均値は1.85で、柏原市は2ということです。

会長

先ほどのお話とも関連しますが、たとえばごく普通の貸し出しに対して、どう言う計画をたてているのか？高齢者に対してどのような貸し出し計画をたてているのか？あるいは、児童に向けては？それ以前に、柏原市の人口に対して児童はどのくらいの割合か、高齢者は、子どもをもったお父さん、お母さんの割合は、人口割りを把握したうえで、柏原市の施策としてどこに対して、サービスが欠けているのか、十分か、足りないか、ここを強化していこうとか、あるいは予算がないから、こっちに集中しようとかできるはずです。

図書館は何を目標にしてどういう事業を日々の活動をどうしていこうかと

いう計画を僕としては知りたいのですが、いかがでしょうか？

事務局

ご指摘のあった件については、次年度に向けては計画を策定したいと思います。

委員

国分図書館が開館され、5年たって、柏原図書館との違いというものを把握され、今後どういう風にやっていこうかと言う計画はあるのでしょうか？

具体的に柏原と国分にはどのような利用者にどういう違いがあり、その利用者の違いに基づいて、配慮がどう違うかと言うことをお聞きしています。

事務局

柏原と国分の利用者や利用方法に、大きな差はないと思っています。

委員

現実には差があると思います。

事務局

国分にはこのような雰囲気がある、柏原にはこのような雰囲気があると、両館を見られてのご意見と思いますが、地域的にはどうというより、柏原市全体としてどうという考え方で動かなくてはいけないと考えています。

委員

総合課題としては、当然そう思います。

図書館内部では、国分では児童と大人のところは階が違います。

柏原は、コーナー的に分かれていますし、比較的小子どものところが身近にあります。国分も座れるが、ベターと座って、赤ちゃん連れの方が利用しやすいのは柏原のような気がします。

それと、本は借りないけど、図書館に来ている人がいます。国分はゆったりして、ゆっくり休めます。

私は、10時に活動のために国分の図書館に行くのですが、必ず、朝10時の同じエレベータに乗られる方がいらっしゃる。いろんな利用のされ方があるのかなと思います。本を貸すとか、冊数がどうか図書館の大きな目標ですが、今、市民の中で利用のされ方が大きな幅をもってきていると思います。

そこで、来られた方が、やっぱり帰りに本借りようかな、と思って利用するということも利用につながっていくと思います。

事務局

建物の構造からして、柏原はワンフロアー、国分はツーフロアー、柏原は公民館と併設しています。利用形態では、バギーで来られる方もおられます。

国分図書館も、毎日こられゆっくと閲覧場所で本を読んで、人に迷惑をかけない範囲で図書館を有効利用されていると思います。

委員

よくないというのではなく、いいなぁと言ってます。

事務局

その中で地域制、子ども図書館との2枚看板をもっているということはありません。

柏原市の利用者の傾向は、どう言う方が利用されているかというのは、貸し出し冊数の中でこのような方が多いなど統計的に出てくると思います。

会長

図書館の目的は、資料・情報の提供であり、それ以外ではないと思います。

図書館の資料を利用したい人が、机やいすが利用できず、結果、図書館での資料提供に支障をきたすということになります。

やはり、図書館の利用と言うのは資料と情報の利用であるべきだと思います。

委員

資料を調べるために来ているのに、満員で無理やり開けてもらわないと入れないくらい一杯のことがあるので、よくわかります。

会長

あまり、図書館の役割を広げ過ぎるのも良くないと思います。

図書館の役割は資料・情報提供と思っています。今、どういう資料が利用者に対して必要なかが重要であります。

事務局

国基準では、標準値が示されていますが、具体的な成果目標や資料などが示されていません。そのため成果を出すために、分析が必要です。

柏原市の実態に応じたものを作らなくてはいけないと思います。

会長

たとえば、開館日を拡大することによって、どのくらいの利用が増えるかを想定していますか。

事務局

先ほど、数値は出していませんでしたが、年間で6日くらい拡大されます。1日貸し出し冊数は平均1,000冊、夏休みは2,000冊位、柏原国分合わせて単純計算ですが2館で、年間6,000冊くらいは増える試算しています。

会長

定例の休館日があるために、貸し出しができなかったか調べる必要があります。どこまで、それを厳密にやるかは、やった上で実現していくかですが、よくある話ですが、開館時間を後ろに延ばす場合、2時間延ばすから2時間

分増えるだろうと思っても、全然増えなかったということもよくあります。

事務局

参考としまして、閉館日にブックポストを利用されています。ブックポストの利用があるということは、閉館日に最低限利用されていると思います。

会 長

まさに、そこを聞きたかったのです。どういう根拠をもって、月末休館日をあげたら利用者が同じように来ると考えたのかということ。

ブックポストを利用者がたくさんいる、数10人くらいが図書館に足を運んでいる、ということは開館すると、利用があるということを知りたかったのです。決定した理由やわかっている部分をとばして説明されるので、分析があってその上でこのように考える、とできれば、その辺り変えていただきたいです。

他に質問は。

委員

マーケティングされていると思いますが、性別と年代別の利用の分析をお願いしたいです。それがあれば柏原、国分それぞれ、この層をとという風の特徴が出ると思います。

どのような分析をすれば一番いいなど、他市の成功事例もありますし、それを柏原と国分をポイントがどう違うのかマークし、どうアプローチをかけるか、常に私たちも同じ目で考えていかななくてはいけないということを提案させていただきたい。

その中で1つ、新刊が出た時、図書館に借りに行きたいという気持ちを起こさせるというアプローチの仕方があります。その辺は何か考えはお持ちでしょうか。

事務局

現実には、新刊図書は毎週入ってきて、展示しています。

柏原市では2館で8000冊あります。

市民のニーズが高いものは、柏原、国分、移動図書に2冊ずつという形でしています。

市民サービスの中ではPR不足して部分については検討していきたい。

委 員

HPを利用されない方は、来られた時に、新刊紹介ですよ、と目につくだけでも、借りてみたいなという気持ちにしていきたい。

こんな本ありませんかと相談の時に活かせるので、アプローチの仕方を検討していただきたいと思います。

現場のお母さん、利用されている方から、HPをよく見ていると言う人

からの声がありました。

先ほどの資料と情報提供が図書館の使命なら、それを伝えていくコンセプトをうちだせば、もっと借りたいなと思われると思います。

委員

詳しい紹介となると、著作権の問題はありませんか。絵本で、公に外に持っていくと著作権の問題になると思います。

会長

表紙を出すには契約しないといけないし、中身に関しては、どこかで使っている図書の紹介文章はダメとか著作権があるので図書館サイドとしては慎重な対応が必要となることから出版社が作成したものを大半の市が利用されていると思います

会長

全般にわたっても結構です、ご意見、ご提案、ご質問等ありませんか。

委員

ある壮大な物語がありまして、上・中・下があり、中間が上・中・下があって、最後がまた上・中・下があり、最後の上・中・下が柏原市の図書館に揃ってなかったのです。せめてその続きの最後までは図書館で揃えてほしいという要望です。

事務局

状況が分からないので返答に困っていますが、あるかないか、返却や在庫などいろいろな問題もあります。そういう場合は、他市も相互貸借しています。大阪府下全域、可能です。

それもひとつの方法かと思います。

委員

ある1つの物語があった時は、最後までそろえてほしいということです。最後だけは、府立に借りないといけないというのは、3冊借りて2週間だよと言うのは大変です。

委員

初めて、このような会議にできました。

広報紙にも、このようなサービスをしていると載せていると思いますが、サービス内容を多くの市民が知っていることはないと思います。

このような人がいることを踏まえて、スーパーの掲示板に事業案内などを張るなどすれば、もっと利用者は増えると思います。主婦感覚でお願いいたします。

事務局

1人でも利用していただくという包括の中で検討していきます。

## 委員

最初に学校図書の話がありました。学校図書館は本がある割にはあまり利用されていない気がします。

これを開放したら、近くの幼稚園児が利用し、本に親しみ、将来図書館を利用するようになるのは理想的ではないでしょうか。

堅下小学校では平成16年からPTAが学校の図書館の開放を手伝っており、今も続いています。週に1回、水曜にしており、何十人もの子どもが来ます。

保護者が当番を交代し、カギをあけて、子どもが本を読んだり、宿題をしたりしています。

そういう子どもたちが、将来、中学に行き、図書館に行くようになるのが、先ほどの数字に反映するのではと思います。学校の図書館を活用できればと思います。

## 委員

今おっしゃったように力を借りながら、学校の本を有効活用していくためになにか考えていかなくてはいけないと思います。図書館も社会教育の担い手であって、涼しいから行こうかと思った人がちらっと見た本がおもしろそうやということもあるかなと思います。

資料と情報の提供はもちろん、求める人が来ると言うのもあるかもしれませんが、何も訳も分からないけれど、入ってくることによって文化を高めていくといくなり、大きな役割があると思います。どう言う風に魅力的な図書館であるかということをもっと考えていきたいと思います。

学校の図書館もそうです。子どもたちが、行きたいなと思う図書室づくりが必要です。学校によって、畳を敷いて、寝転びながら読むなど取り組みをやっているところもあります。

## 会長

以上、本日の会議に付されました案件の全てが終了いたしましたので、これもちまして平成22年度の柏原市図書館協議会を終了いたします。

まだまだ猛暑が続くと思いますが、健康にご留意賜りますようお願いし、進行を事務局にお返ししたいと思います。

## 事務局

会長におかれましては、長時間にわたりまして議事進行をしていただきましてありがとうございました。また、各委員におかれましては、貴重なご意見をいただきありがとうございました。今後とも職員一同「市民が利用しやすい図書館を構築していく所存」でありますので引き続きご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



なお、最後になりますが、本日の会議録につきましては、後日各委員に持ち回りさせていただいたうえで図書館のホームページに掲載させていただきますことをご了承賜りますようお願い申し上げ、閉会とさせていただきます。

本日はありがとうございました。